

## マーカス・プリンタップも愛用しているBSCトランペットが日本でも発売開始

**BSC(プラス・サウンド・クリエーション)**

**TR 105S (ミレニアム)**

**TR 303S (シンフォニー)**

**TR 501G**

金管楽器のバルブ・オイルやスプリングでおなじみのBSCが製作したトランペットが、いよいよ日本でも輸入されることになった。BSCトランペットは、ルクセンブルクにアトリエを構えているTomomi KATO(加藤朋海)が手がけているブランド。ヨーロッパではすでに高い評価を得ている3機種についてマーカス・プリンタップと吉田憲司に話を聞いた。

この楽器は、僕のどんな言葉もそのまま表現してくれるんだ。囁きたいときも叫びたいときも、息の入れ方次第で両方に対応してくれる

——— マーカス・プリンタップ

### マーカス・プリンタップ

僕がトランペットに求めることには、ふたつの大きなポイントがある。ひとつは音色。もうひとつは吹奏感だ。BSCのTR 501Gは両方を満足させてくれる楽器だね。抵抗感が少なく楽に吹けるが、適度にヘヴィ・タイプで、音のフォーカスがはっきりしている。さらに、自分の思ったままの音を出せる表現力もある。

ジャズ・ミュージシャンにとって最も大切なことは、その楽器で自分の音楽を表現できるかどうかということ。つまり、自分の言葉をその楽器で語れるかということなんだ。ミュージシャンは楽器を通して自分を表現しているわけだから、自分の言葉を話せない楽器では意味がない。この楽器は、僕のどんな言葉もそのまま表現してくれるんだ。

特徴としては、ラウンド・アンド・ファットな音色の楽器だね。だから、囁きたいときも叫びたいときも、息の入れ方次第で両方に対応してくれる。ソロ向きの楽器かもしれないけど、リード・トランペットでも充分対応できるよ。この前も、リンカーン・センター・オーケストラでリードを吹いたけど、太くて力強い音でよく鳴るし、速達性もあるから、リード・プレイヤーでも充分使えるね。

### 吉田憲司

3本ともオールマイティに使える楽器です。基本的には柔らかい音ですが、吹き方によってブライトな音も出せます。ピッチも抜群に良いし、ジャズのコンボでもビッグバンドでも、ラテン・バンドでも、吹奏楽やオーケストラでも使えます。ベルにパッジが貼ってあるのも、ベルガードが付いているのも、すべて音響的に意味があって、製作者は音のフォーカスを考えて付けているようです。

僕はシンフォニーを吹いて、クセのないナチュラルな吹奏感と音色が気に入りました。クセがないということは、プレイヤーの表現力がその

まま出せるということですね。個性的な楽器は、特に経験の少ない人ほど、その個性にインスパイアされる可能性が高いですから。自分の音を作るためには、クセがないことは重要です。初心者でも良い音で吹けますし、上級者の要求するいろいろなことにも、素直に反応してくれるわけですからね。

また、ミレニアムの完成度は、特筆すべきですね。外観的にもシンフォニーとほとんど同じで、コスト・パフォーマンスは素晴らしいですよ。この2本の最も大きな差は反応の早さでしょう。ですから、ビギナーだけでなく、プロもこの楽器を持って仕事に行きますよ(笑)。

フラッグシップ・モデルの501は、

とても柔らかい音色で、バランスの良さといい、吹奏感といい、表現力といい、素晴らしい楽器です。細部まで考えられて作られており、トータル・バランスに優れた楽器です。可能性も秘めていますし、ルックスも素晴らしいし、希少性という意味でも、楽器のフェラーリと言ってもいいでしょうね(笑)。



マーカス・プリンタップ  
自身も「TR 501G」を使用しているマーカス。下の写真は実際に彼が使用しているモデル。ボトムはヘヴィ・タイプに選んでいる。



吉田憲司

